

# 医薬品安全使用ニュース

## サラゾスルファピリジン製剤の 普通錠と腸溶錠の違いについて

○先発品：サラゾピリン錠500mg

(後発品名称：サラゾスルファピリジン錠)

→ 適応症：潰瘍性大腸炎、限局性腸炎、非特異性大腸炎



○先発品：アザルフィジンEN錠250,500mg

(後発品名称：サラゾスルファピリジン腸溶錠)

→ 適応症：関節リウマチ



消化器系症状の副作用軽減目的で  
腸溶性とされております

### 概要

サラゾスルファピリジン製剤には、  
普通錠(サラゾピリン錠)と腸溶錠(アザルフィジンEN錠)  
があり、適応症(効能効果)や用法用量が異なります

### 注意すべきポイント

当院において、適応の異なるサラゾスルファピリジン製剤が処方された事例が報告されております

薬剤の検索名称に、  
病名をそれぞれ追加  
しておりますので、  
処方時にご確認ください

01	★潰瘍性大腸炎★サラゾピリン錠(500mg)	1	4	錠
02	1日4回(朝,昼,夕)食後,眠前	10-07から1日分		
03	★リウマチ★アザルフィジンEN錠500mg【腸溶錠】	1	2	錠
	1日2回(朝,夕)食後	10-07から1日分		

**当院採用は先発品です**

**後発医薬品の持参薬から院内処方への切り替えの際はご注意ください**

※サラゾスルファピリジン以外にも、同一成分で適応症が異なる薬剤の組み合わせは複数ありますので、同様に持参薬からの切り替え時にはご注意ください